

ChIPmentation kit for histones

C01011010

フライリーフ

編集日: 28.07.2020

部品表

物質名	特定名	個数	GHSに基づいた分類	絵表示	ページ
Glycine		1			3 – 9
Shearing Buffer iS1		1			10 – 17
DiaMag protein A-coated magnetic beads		1			18 – 24
wash buffer iW1		1	Skin Irrit. 3 / H316 Aquatic Acute 3 / H402		25 – 33
Wash buffer iW2		1	Skin Irrit. 3 / H316		34 – 42
Wash buffer iW3		1	Skin Irrit. 3 / H316 Aquatic Acute 3 / H402		43 – 52
ChIP-seq grade water		1			53 – 59
lysis buffer iL1		1			60 – 67
Lysis Buffer iL2		1			68 – 75
5x ChIP Buffer iC1		1	Skin Irrit. 3 / H316 Aquatic Acute 3 / H402 Aquatic Chronic 3 / H412		76 – 87
Tagmentation buffer		1	Flam. Liq. 3 / H226 Eye Dam. 1 / H318 Muta. 2 / H341 Carc. 1B / H350 Repr. 1B / H360 STOT SE 1 / H370 STOT RE 1 / H372		88 – 99
wash buffer tagW1		1			100 – 106
Wash Buffer tagW2		1	Skin Irrit. 3 / H316		107 – 115
Stripping Reagent		1			116 – 122
MgCl2		1			123 – 129
resuspension buffer		1			130 – 136
Protease Inhibitor Mix		1	Flam. Liq. 4 / H227		137 – 145
5% BSA		1			146 – 152
rabbit IgG		1			153 – 159

ChIPmentation kit for histones

C01011010

フライリーフ

編集日: 28.07.2020

物質名	特定名	個数	GHSに基づいた分類	絵表示	ページ
H3K4me3 polyclonal antibody		1	Skin Sens. 1 / H317 Aquatic Acute 3 / H402		160 – 168
ChIP-seq grade GAPDH TSS primer pair		1			169 – 175
ChIP-seq grade Myoglobin exon 2 primer pair		1			176 – 182
Tagmentation enzyme		1			183 – 189
2x High-Fidelity Mastermix		1	Flam. Liq. 4 / H227		190 – 198
100x SYBR		1			199 – 205
universal primer		1			206 – 212
Primer index 1-24		1			213 – 219

Glycine

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 **Glycine**

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

Glycine

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NO_x), 一酸化炭素 (CO), 二酸化炭素 (CO₂)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず, 珪藻土, 砂, 万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

Glycine

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。個人の保護具：第 8 節を参照。混触禁止物質：第 10 節を参照。廃棄上の注意：第 13 節を参照。

第 7 節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第 16 節を参照。

第 8 節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

Glycine

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2	その他の情報	追加情報がない
-----	--------	---------

Glycine

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

酸化性物質

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

Glycine

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

- | | |
|--|---------------------|
| 14.1 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 使用者のための特別予防措置 | |
| 追加情報がない。 | |
| 14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | |
| 荷はバラ積み輸送に適していない。 | |

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

Glycine

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

G H S に基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). G H S に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (S D S) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

Shearing Buffer iS1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名

Shearing Buffer iS1

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途

診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供

+32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月－金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者への診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者への診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

Shearing Buffer iS1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NOx)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

Shearing Buffer iS1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。個人の保護具：第 8 節を参照。混触禁止物質：第 10 節を参照。廃棄上の注意：第 13 節を参照。

第 7 節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第 16 節を参照。

第 8 節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

Shearing Buffer iS1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性 (固体、気体)	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報

その他の情報	追加情報がない
--------	---------

Shearing Buffer iS1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

Shearing Buffer iS1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

- 12.1 毒性**
水生環境有害性として分類されない。
- 12.2 難分解性及び分解性**
データなし。
- 12.3 生物蓄積性**
データなし。
- 12.4 土壌中の移動度**
データなし。
- 12.5 PBT と vPvB の評価の結果**
データなし。
- 12.6 他の有害影響**
データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

- 13.1 廃棄物処理方法**
下水処理に関連する情報
排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。
包装材／容器の廃棄物処分
完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。
- 備考**
国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

- | | |
|---|---------------------|
| 14.1 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 使用者のための特別予防措置 | 追加情報がない。 |
| 14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | 荷はバラ積み輸送に適していない。 |

Shearing Buffer iS1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

変更された箇所（安全データシートの改訂）

章	以前の登録内容（文書／数値）	現時点の登録内容（文書／数値）	安全対策と関わりがある
1.1	製品コード: C01019005		該当

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）.

Shearing Buffer iS1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のみのためにまとめられた.

DiaMag protein A-coated magnetic beads

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名	DiaMag protein A-coated magnetic beads
製品コード	C03010020

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途	診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。
---------------	--------------------------

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供	+32 4 364 20 50 当該番号は次の営業時間に利用可能: 月－金 09:00 - 17:00
---------	--

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

混合物の明細

DiaMag protein A-coated magnetic beads

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者への診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者への診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量の清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NOx)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消火活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

DiaMag protein A-coated magnetic beads

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうかを確認することを推奨する。

DiaMag protein A-coated magnetic beads

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期をすること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体 (懸濁液)
色	茶色
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性 (固体、気体)	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

DiaMag protein A-coated magnetic beads

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

9.2 その他の情報

追加情報がない

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影響の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

DiaMag protein A-coated magnetic beads

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性
特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。
吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

- 12.1 毒性**
水生環境有害性として分類されない。
- 12.2 難分解性及び分解性**
データなし。
- 12.3 生物蓄積性**
データなし。
- 12.4 土壌中の移動度**
データなし。
- 12.5 PBT と vPvB の評価の結果**
データなし。
- 12.6 他の有害影響**
データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

- 13.1 廃棄物処理方法**
廃棄物処分に関連する情報
その他の無機物の再生利用／回収利用。
下水処理に関連する情報
排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。
包装材／容器の廃棄物処分
完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。
- 備考**
国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

- | | |
|---|---------------------|
| 14.1 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 使用者のための特別予防措置 | 追加情報がない。 |
| 14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | 荷はバラ積み輸送に適していない。 |

DiaMag protein A-coated magnetic beads

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JIS Z7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式).

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

wash buffer iW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 wash buffer iW1

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類

章	危険性クラス	区分	危険有害性クラス及び区分	危険有害性情報
3.2	皮膚腐食性/刺激性	3	Skin Irrit. 3	H316
4.1A	水生環境有害性－短期間（急性）有害性	3	Aquatic Acute 3	H402

省略の全文：第16節を参照。

最も重要な物理化学的悪影響、人の健康と環境に対する影響及び症状

消火水の流出により水流汚染を引き起こすおそれ。

2.2 ラベル要素

表示

- 注意喚起語 警告
- 絵表示 必要ない

- 危険有害性情報
H316 軽度の皮膚刺激。
H402 水生生物に有害。

- 注意書き
P273 環境への放出を避けること。
P332+P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
P501 内容物/容器を産業用ゴミ焼却施設に廃棄すること。

wash buffer iW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果

当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

物質名	特定名	wt%	GHSに基づいた分類	絵表示
ポリ（オキシエチレン）＝パラ-（1,1,3,3-テトラメチルブチル）フェニル＝エーテル（別名：トリトン X-100）	CAS-番号 9002-93-1	≤ 2	Acute Tox. 4 / H302 Skin Irrit. 2 / H315 Eye Irrit. 2A / H319 Aquatic Acute 2 / H401 Aquatic Chronic 2 / H411	
Sodium dodecyl sulphate	CAS-番号 151-21-3	≤ 0,1	Acute Tox. 4 / H302 Acute Tox. 2 / H310 Skin Irrit. 2 / H315 Eye Dam. 1 / H318 STOT SE 1 / H370 STOT RE 2 / H373 Aquatic Acute 1 / H400 Aquatic Chronic 3 / H412	

省略の全文：第16節を参照。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者（医師）の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者（医師）の診察を受け、応急処置を開始すること。気道刺激の際は医師（医師）の診察を受けること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

wash buffer iW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NO_x)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレアのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

wash buffer iW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

混合物の成分の関連するDNEL						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	保護目標、ばく露の経路	次の部門に用いられる：	ばく露時間
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	DNEL	285 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性－全身的作用
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	DNEL	4,060 mg/kg 体重／日	ヒト、経皮	労働者（企業）	慢性－全身的作用

混合物の成分の関連するPNEC						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	生体	環境コンパートメント	ばく露時間
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,176 mg/l	水中の微生物	淡水	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,018 mg/l	水中の微生物	海水	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	1,35 mg/l	水中の微生物	下水処理場 (STP)	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	6,97 mg/kg	水中の微生物	淡水堆積物	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,697 mg/kg	水中の微生物	海底堆積物	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	1,29 mg/kg	地球型生物	土壌	短期（単回）

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

wash buffer iW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期をとること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH（値）	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	1 g/cm ³ では 20 °C
蒸気密度	この情報は、入手できない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報

追加情報がない

wash buffer iW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

下記、「避けるべき条件」を参照。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

軽度の皮膚刺激。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性として分類されない。

wash buffer iW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生生物に有害。

混合物の成分の（急性）水生毒性					
物質名	CAS-番号	エンドポイント	値	生物種	ばく露時間
ドデシル硫酸ナトリウム	151-21-3	LC50	29 mg/l	魚	9 6 h
ドデシル硫酸ナトリウム	151-21-3	ErC50	→120 mg/l	藻類	7 2 h
ドデシル硫酸ナトリウム	151-21-3	EC50	53 mg/l	藻類	7 2 h

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvBの評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号	輸送規則の要件は適用されない
14.2 国連出荷名	未特定
14.3 輸送時の危険性クラス	未特定
14.4 容器等級	未特定
14.5 環境有害性	危険物規則に基づいて環境有害性ではない
14.6 使用者のための特別予防措置	追加情報がない。

wash buffer iW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外。

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外。

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない。

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない。

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
Acute Tox.	急性毒性
Aquatic Acute	水生環境有害性－短期間（急性）有害性
Aquatic Chronic	水生環境有害性－長期間（慢性）有害性
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
DNEL	導出無影響レベル
EC50	半数影響濃度。EC50とは試験した物質の濃度の反応（例えば成長）が一定した期間内に50% 変化することを指す
ErC50	≒EC50: 当方法では被験物質と比較し、濃度の成長 (EbC50) または成長率 (ErC50) が50 %に減少させる物質の濃度をいう
Eye Dam.	眼の重篤な損傷
Eye Irrit.	眼刺激性
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
LC50	半数致死濃度：LC50とは、試験された物質にばく露された生物の50%が一定期間内に死亡する濃度のことをいう
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
PNEC	予測無影響濃度

wash buffer iW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

略	使用した略語の説明
Skin Corr.	皮膚腐食性
Skin Irrit.	皮膚刺激性
STOT RE	特定標的臓器毒性（反復ばく露）
STOT SE	特定標的臓器毒性（単回ばく露）
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）- 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）.

関連する警句のリスト（項目2 と項目3 で記すコードと全文を記載）

コード	文
H302	飲み込むと有害.
H310	皮膚に接触すると生命に危険.
H315	皮膚刺激.
H316	軽度の皮膚刺激.
H318	重篤な眼の損傷.
H319	強い眼刺激.
H370	臓器の障害.
H373	長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ.
H400	水生生物に非常に強い毒性.
H401	水生生物に毒性.
H402	水生生物に有害.
H411	長期継続的影響により水生生物に毒性.
H412	長期継続的影響により水生生物に有害.

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のみのためにまとめられた.

Wash buffer iW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 Wash buffer iW2

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類

章	危険性クラス	区分	危険有害性クラス及び区分	危険有害性情報
3.2	皮膚腐食性/刺激性	3	Skin Irrit. 3	H316

省略の全文：第16節を参照。

2.2 ラベル要素

表示

- 注意喚起語 警告
- 絵表示 必要ない
- 危険有害性情報
H316 軽度の皮膚刺激。
- 注意書き
P332+P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvB の評価の結果

当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

Wash buffer iW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

物質名	特定名	wt%	GHSに基づいた分類	絵表示
ポリ（オキシエチレン）＝パラ-（1,1,3,3-テトラメチルブチル）フェニル＝エーテル（別名：トリトン X-100）	CAS-番号 9002-93-1	≤ 1	Acute Tox. 4 / H302 Skin Irrit. 2 / H315 Eye Irrit. 2A / H319 Aquatic Acute 2 / H401 Aquatic Chronic 2 / H411	
Sodium dodecyl sulphate	CAS-番号 151-21-3	≤ 0,1	Acute Tox. 4 / H302 Acute Tox. 2 / H310 Skin Irrit. 2 / H315 Eye Dam. 1 / H318 STOT SE 1 / H370 STOT RE 2 / H373 Aquatic Acute 1 / H400 Aquatic Chronic 3 / H412	

省略の全文：第16節を参照.

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者 の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者 の診察を受け、応急処置を開始すること。気道刺激の際は医師の診察を受けること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

Wash buffer iW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NO_x)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレートのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

Wash buffer iW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照.

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない.

混合物の成分の関連するDNEL						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	保護目標、ばく露の経路	次の部門に用いられる：	ばく露時間
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	DNEL	285 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性－全身的作用
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	DNEL	4,060 mg/kg 体重／日	ヒト、経皮	労働者（企業）	慢性－全身的作用

混合物の成分の関連するPNEC						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	生体	環境コンパートメント	ばく露時間
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,176 mg/l	水中の微生物	淡水	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,018 mg/l	水中の微生物	海水	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	1,35 mg/l	水中の微生物	下水処理場 (STP)	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	6,97 mg/kg	水中の微生物	淡水堆積物	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,697 mg/kg	水中の微生物	海底堆積物	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	1,29 mg/kg	地球型生物	土壌	短期（単回）

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気.

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用.

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用. EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である. 使用前に密封性/不浸透性を確認すること. 手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること. 特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する.

Wash buffer iW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期をすること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH（値）	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	1 g/cm ³ では 20 °C
蒸気密度	この情報は、入手できない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報

追加情報がない

Wash buffer iW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

下記、「避けるべき条件」を参照。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

軽度の皮膚刺激。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性として分類されない。

Wash buffer iW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壤中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvBの評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外。

Wash buffer iW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
Acute Tox.	急性毒性
Aquatic Acute	水生環境有害性－短期間（急性）有害性
Aquatic Chronic	水生環境有害性－長期間（慢性）有害性
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
DNEL	導出無影響レベル
Eye Dam.	眼の重篤な損傷
Eye Irrit.	眼刺激性
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
PNEC	予測無影響濃度
Skin Corr.	皮膚腐食性
Skin Irrit.	皮膚刺激性
STOT RE	特定標的臓器毒性（反復ばく露）
STOT SE	特定標的臓器毒性（単回ばく露）
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）- 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）.

Wash buffer iW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

関連する警句のリスト（項目2 と項目3 で記すコードと全文を記載）

コード	文
H302	飲み込むと有害.
H310	皮膚に接触すると生命に危険.
H315	皮膚刺激.
H316	軽度の皮膚刺激.
H318	重篤な眼の損傷.
H319	強い眼刺激.
H370	臓器の障害.
H373	長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ .
H400	水生生物に非常に強い毒性.
H401	水生生物に毒性.
H411	長期継続的影響により水生生物に毒性.
H412	長期継続的影響により水生生物に有害.

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のみのためにまとめられた.

Wash buffer iW3

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 Wash buffer iW3

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類

章	危険性クラス	区分	危険有害性クラス及び区分	危険有害性情報
3.2	皮膚腐食性/刺激性	3	Skin Irrit. 3	H316
4.1A	水生環境有害性－短期間（急性）有害性	3	Aquatic Acute 3	H402

省略の全文：第16節を参照。

最も重要な物理化学的悪影響、人の健康と環境に対する影響及び症状

消火水の流出により水流汚染を引き起こすおそれ。

2.2 ラベル要素

表示

- 注意喚起語 警告
- 絵表示 必要ない

- 危険有害性情報
H316 軽度の皮膚刺激。
H402 水生生物に有害。

- 注意書き
P273 環境への放出を避けること。
P332+P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
P501 内容物/容器を産業用ゴミ焼却施設に廃棄すること。

Wash buffer iW3

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果

当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

物質名	特定名	wt%	GHSに基づいた分類	絵表示
Lithium chloride	CAS-番号 7447-41-8	≤ 2	Acute Tox. 4 / H302 Acute Tox. 5 / H313 Skin Irrit. 2 / H315 Eye Irrit. 2A / H319 Repr. 2 / H361 STOT SE 2 / H371 STOT RE 2 / H373 Aquatic Acute 3 / H402 Aquatic Chronic 3 / H412	
Nonylphenol, ethoxylated	CAS-番号 9016-45-9	≤ 1	Acute Tox. 5 / H303 Skin Irrit. 2 / H315 Eye Irrit. 2A / H319 Repr. 2 / H361 Aquatic Acute 1 / H400 Aquatic Chronic 2 / H411	

省略の全文：第16節を参照。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者（医師）の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者（医師）の診察を受け、応急処置を開始すること。気道刺激の際は医師の診察を受けること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

Wash buffer iW3

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NO_x)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレートのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

Wash buffer iW3

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

混合物の成分の関連するDNEL						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	保護目標、ばく露の経路	次の部門に用いられる：	ばく露時間
Lithium chloride	7447-41-8	DNEL	10 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性－全身的作用
Lithium chloride	7447-41-8	DNEL	30 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	急性－全身的作用
Lithium chloride	7447-41-8	DNEL	73,2 mg/kg 体重／日	ヒト、経皮	労働者（企業）	慢性－全身的作用

混合物の成分の関連するPNEC						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	生体	環境コンパートメント	ばく露時間
Lithium chloride	7447-41-8	PNEC	10,4 mg/l	水中の微生物	淡水	短期（単回）
Lithium chloride	7447-41-8	PNEC	1,04 mg/l	水中の微生物	海水	短期（単回）
Lithium chloride	7447-41-8	PNEC	140,2 mg/l	水中の微生物	下水処理場 (STP)	短期（単回）
Lithium chloride	7447-41-8	PNEC	49,9 mg/kg	水中の微生物	淡水堆積物	短期（単回）
Lithium chloride	7447-41-8	PNEC	4,99 mg/kg	水中の微生物	海底堆積物	短期（単回）
Lithium chloride	7447-41-8	PNEC	4,13 mg/kg	地球型生物	土壌	短期（単回）

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

Wash buffer iW3

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	1 g/cm ³ では 20 °C
蒸気密度	この情報は、入手できない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報

その他の情報	追加情報がない
--------	---------

Wash buffer iW3

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

下記、「避けるべき条件」を参照。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

軽度の皮膚刺激。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性として分類されない。

Wash buffer iW3

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第12節：環境影響情報

12.1 毒性

水生生物に有害。

混合物の成分の（急性）水生毒性					
物質名	CAS-番号	エンドポイント	値	生物種	ばく露時間
塩化リチウム	7447-41-8	LC50	158 mg/l	魚	96 h
塩化リチウム	7447-41-8	EC50	249 mg/l	水生無脊椎動物	48 h
塩化リチウム	7447-41-8	ErC50	→400 mg/l	藻類	72 h
ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	9016-45-9	LC50	1,821 mg/l	水生無脊椎動物	48 h
ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	9016-45-9	EC50	20 mg/l	藻類	48 h
ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル	9016-45-9	ErC50	50 mg/l	藻類	48 h

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvBの評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第13節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたコン包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

Wash buffer iW3

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第14節：輸送上の注意

- | | | |
|------|---------------------------------------|---------------------|
| 14.1 | 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 | 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 | 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 | 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 | 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 | 使用者のための特別予防措置 | 追加情報がない. |
| 14.7 | MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | 荷はバラ積み輸送に適していない. |

国連モデル規則による情報を提供すること
輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)
未特定

国際海上危険物規則(IMDG)
IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)
ICAO-IATA協定対象外.

第15節：適用法令

- 15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制
追加情報がない.
- 15.2 化学物質安全性評価
当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第16節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
Acute Tox.	急性毒性
Aquatic Acute	水生環境有害性－短期間（急性）有害性
Aquatic Chronic	水生環境有害性－長期間（慢性）有害性
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
DNEL	導出無影響レベル
EC50	半数影響濃度。EC50とは試験した物質の濃度の反応（例えば成長）が一定した期間内に50% 変化することを指す
ErC50	≒EC50: 当方法では被験物質と比較し、濃度の成長 (EbC50) または成長率 (ErC50) が50 %に減少させる物質の濃度をいう
Eye Dam.	眼の重篤な損傷
Eye Irrit.	眼刺激性

Wash buffer iW3

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

略	使用した略語の説明
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
LC50	半数致死濃度：LC50とは、試験された物質にばく露された生物の50%が一定期間内に死亡する濃度のことをいう
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
PNEC	予測無影響濃度
Repr.	生殖毒性
Skin Corr.	皮膚腐食性
Skin Irrit.	皮膚刺激性
STOT RE	特定標的臓器毒性（反復ばく露）
STOT SE	特定標的臓器毒性（単回ばく露）
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 [JISZ7252]. GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）- 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）.

関連する警句のリスト（項目2と項目3で記すコードと全文を記載）

コード	文
H302	飲み込むと有害.
H303	飲み込むと有害のおそれ.
H313	皮膚に接触すると有害のおそれ.
H315	皮膚刺激.
H316	軽度の皮膚刺激.
H319	強い眼刺激.
H361	生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い.
H371	臓器の障害のおそれ.
H373	長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ.
H400	水生生物に非常に強い毒性.
H402	水生生物に有害.
H411	長期継続的影響により水生生物に毒性.
H412	長期継続的影響により水生生物に有害.

Wash buffer iW3

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のみのためにまとめられた.

ChIP-seq grade water

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

物質の特定

ChIP-seq grade water

CAS-番号

7732-18-5

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途

診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供

+32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該物質は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該物質の評価の結果、PBT でもvPvBでもない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

物質名

ChIP-seq grade water

特定

CAS-番号

7732-18-5

分子式

H₂O

モル質量

18,02 g/mol

ChIP-seq grade water

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者 の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者 の診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, 耐アルコール性泡, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

ChIP-seq grade water

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること: おがくず, 珪藻土, 砂, 万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

ChIP-seq grade water

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	0 °C
初留点と沸点範囲	100 °C
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性 (固体、気体)	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない

溶解性

- 水溶解性	あらゆる割合で混ざり合う
--------	--------------

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報

追加情報がない

ChIP-seq grade water

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

GHSに基づいた分類

当該物質は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性として分類されない。

ChIP-seq grade water

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvBの評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

廃棄物処分に関連する情報

その他の無機物の再生利用／回収利用。

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたコン包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

ChIP-seq grade water

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該物質の化学物質安全性評価は実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）- 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

lysis buffer iL1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名

lysis buffer iL1

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう警告されている用途

関連性がある特定された用途

診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供

+32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月－金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者への診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者への診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

lysis buffer iL1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NOx)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

lysis buffer iL1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。個人の保護具：第 8 節を参照。混触禁止物質：第 10 節を参照。廃棄上の注意：第 13 節を参照。

第 7 節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第 16 節を参照。

第 8 節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

lysis buffer iL1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性 (固体、気体)	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報

その他の情報	追加情報がない
--------	---------

lysis buffer iL1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

lysis buffer iL1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

- 12.1 毒性**
水生環境有害性として分類されない。
- 12.2 難分解性及び分解性**
データなし。
- 12.3 生物蓄積性**
データなし。
- 12.4 土壌中の移動度**
データなし。
- 12.5 PBT と vPvB の評価の結果**
データなし。
- 12.6 他の有害影響**
データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

- 13.1 廃棄物処理方法**
下水処理に関連する情報
排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。
包装材／容器の廃棄物処分
完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。
- 備考**
国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

- | | |
|---|---------------------|
| 14.1 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 使用者のための特別予防措置 | 追加情報がない。 |
| 14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | 荷はバラ積み輸送に適していない。 |

lysis buffer iL1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

変更された箇所（安全データシートの改訂）

章	以前の登録内容（文書／数値）	現時点の登録内容（文書／数値）	安全対策と関わりがある
1.1	製品コード: C01019011		該当

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）.

lysis buffer iL1

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.01.2020 (GHS 1)

改訂日: 23.01.2020

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のみのためにまとめられた.

Lysis Buffer iL2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 **Lysis Buffer iL2**

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvB の評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

物質名	特定名	wt%	GHSに基づいた分類	絵表示
Sodium 4-(2-hydroxyethyl)piperazin-1-ylethanesulphonate	CAS-番号 75277-39-3	≤ 2	Acute Tox. 5 / H303	

省略の全文：第16節を参照。

Lysis Buffer iL2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者への診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者への診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量の清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NOx)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消火活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

Lysis Buffer iL2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうかを確認することを推奨する。

Lysis Buffer iL2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期をすること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH（値）	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

Lysis Buffer iL2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

9.2	その他の情報	追加情報がない
-----	--------	---------

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影響の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

Lysis Buffer iL2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性
特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。
吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

- 12.1 毒性**
水生環境有害性として分類されない。
- 12.2 難分解性及び分解性**
データなし。
- 12.3 生物蓄積性**
データなし。
- 12.4 土壤中の移動度**
データなし。
- 12.5 PBT と vPvBの評価の結果**
データなし。
- 12.6 他の有害影響**
データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

- 13.1 廃棄物処理方法**
下水処理に関連する情報
排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。
包装材／容器の廃棄物処分
完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。
- 備考**
国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

- | | |
|---|---------------------|
| 14.1 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 使用者のための特別予防措置 | 追加情報がない。 |
| 14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | 荷はバラ積み輸送に適していない。 |

Lysis Buffer iL2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
Acute Tox.	急性毒性
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 [JISZ7252]. GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）- 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）.

関連する警句のリスト（項目2 と項目3 で記すコードと全文を記載）

コード	文
H303	飲み込むと有害のおそれ.

Lysis Buffer iL2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のみのためにまとめられた.

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 5x ChIP Buffer iC1

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類

章	危険性クラス	区分	危険有害性クラス及び区分	危険有害性情報
3.2	皮膚腐食性/刺激性	3	Skin Irrit. 3	H316
4.1A	水生環境有害性－短期間（急性）有害性	3	Aquatic Acute 3	H402
4.1C	水生環境有害性－長期間（慢性）有害性	3	Aquatic Chronic 3	H412

省略の全文：第16節を参照。

最も重要な物理化学的悪影響、人の健康と環境に対する影響及び症状
消火水の流出により水流汚染を引き起こすおそれ。

2.2 ラベル要素

表示

- 注意喚起語 警告
- 絵表示 必要ない

- 危険有害性情報
H316 軽度の皮膚刺激。
H412 長期継続的影響により水生生物に有害。

- 注意書き
P273 環境への放出を避けること。
P332+P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
P501 内容物/容器を産業用ゴミ焼却施設に廃棄すること。

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果

当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

物質名	特定名	wt%	GHSに基づいた分類	絵表示
ポリ（オキシエチレン）＝パラ-（1,1,3,3-テトラメチルブチル）フェニル＝エーテル（別名：トリトン X-100）	CAS-番号 9002-93-1	≤ 10	Acute Tox. 4 / H302 Skin Irrit. 2 / H315 Eye Irrit. 2A / H319 Aquatic Acute 2 / H401 Aquatic Chronic 2 / H411	
Sodium dodecyl sulphate	CAS-番号 151-21-3	≤ 1	Acute Tox. 4 / H302 Acute Tox. 2 / H310 Skin Irrit. 2 / H315 Eye Dam. 1 / H318 STOT SE 1 / H370 STOT RE 2 / H373 Aquatic Acute 1 / H400 Aquatic Chronic 3 / H412	
Edetic acid	CAS-番号 60-00-4	≤ 0,2	Acute Tox. 5 / H303 Eye Irrit. 2B / H320 Repr. 2 / H361 STOT RE 1 / H372 Aquatic Acute 3 / H402 Aquatic Chronic 3 / H412	

省略の全文：第16節を参照。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者（医師）の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者（医師）の診察を受け、応急処置を開始すること。気道刺激の際は医師（医師）の診察を受けること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

- 4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示**
なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NO_x), 一酸化炭素 (CO), 二酸化炭素 (CO₂)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。物質が水流や排水路に入った際は、担当の機関に連絡すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず, 珪藻土, 砂, 万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

霜

- 輸送容器の適合性
認可された（例えば危険物規則書に基づいた）包装容器のみ使用可能。

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

混合物の成分の関連するDNEL						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	保護目標、ばく露の経路	次の部門に用いられる：	ばく露時間
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	DNEL	285 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性－全身的作用
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	DNEL	4,060 mg/kg 体重／日	ヒト、経皮	労働者（企業）	慢性－全身的作用
Edetic acid	60-00-4	DNEL	1,5 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性－局所的作用
Edetic acid	60-00-4	DNEL	3 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	急性－局所的作用

混合物の成分の関連するPNEC						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	生体	環境コンパートメント	ばく露時間
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,176 mg/l	水中の微生物	淡水	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,018 mg/l	水中の微生物	海水	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	1,35 mg/l	水中の微生物	下水処理場 (STP)	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	6,97 mg/kg	水中の微生物	淡水堆積物	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,697 mg/kg	水中の微生物	海底堆積物	短期（単回）

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

混合物の成分の関連するPNEC						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	生体	環境コンパートメント	ばく露時間
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	1,29 mg/kg	地球型生物	土壌	短期（単回）
Edetic acid	60-00-4	PNEC	2,2 mg/l	水中の微生物	淡水	短期（単回）
Edetic acid	60-00-4	PNEC	0,22 mg/l	水中の微生物	海水	短期（単回）
Edetic acid	60-00-4	PNEC	43 mg/l	水中の微生物	下水処理場 (STP)	短期（単回）
Edetic acid	60-00-4	PNEC	0,72 mg/kg	地球型生物	土壌	短期（単回）

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH（値）	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報 追加情報がない

第 10 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

下記、「避けるべき条件」を参照。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

酸化性物質

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影響の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

軽度の皮膚刺激。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

長期継続的影響により水生生物に有害。

混合物の成分の（急性）水生毒性					
物質名	CAS-番号	エンドポイント	値	生物種	ばく露時間
ドデシル硫酸ナトリウム	151-21-3	LC50	29 mg/l	魚	9 6 h
ドデシル硫酸ナトリウム	151-21-3	ErC50	→120 mg/l	藻類	7 2 h
ドデシル硫酸ナトリウム	151-21-3	EC50	53 mg/l	藻類	7 2 h
エチレンジアミン四酢酸	60-00-4	LC50	121 mg/l	魚	9 6 h
エチレンジアミン四酢酸	60-00-4	EC50	140 mg/l	水生無脊椎動物	4 8 h

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

混合物の成分の（慢性）水生毒性					
物質名	CAS-番号	エンドポイント	値	生物種	ばく露時間
ドデシル硫酸ナトリウム	151-21-3	EC50	135 mg/l	微生物	3 h

12.2 難分解性及び分解性

混合物の成分の分解性						
物質名	CAS-番号	プロセス	分解率	時刻	方法	出典
ドデシル硫酸ナトリウム	151-21-3	二酸化炭素生成量	95 %	28 d		ECHA

12.3 生物蓄積性

データなし.

混合物の成分の生物蓄積性				
物質名	CAS-番号	BCF	log KOW	BOD5/COD
ドデシル硫酸ナトリウム	151-21-3		κ -2,03 [20 °C]	
エチレンジアミン四酢酸	60-00-4	1,8		

12.4 土壌中の移動度

データなし.

12.5 PBT と vPvBの評価の結果

データなし.

12.6 他の有害影響

データなし.

第 13 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない. 外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること.

包装材／容器の廃棄物処分

認可された（例えば危険物規則書に基づいた）包装容器のみ使用可能. 完全に空にした容器はリサイクル可能. 汚染されたコン包は物質その物と同じ取扱いになる.

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること. 地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう.

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

第14節：輸送上の注意

14.1 国連番号	3082
14.2 国連出荷名 専門名 (危険有害性成分)	環境有害物、液体、他の危険性を有しないもの ポリ (オキシエチレン) = パラ- (1,1,3,3-テトラメチルブチル) フェニル=エーテル (別名：トリトン X-100)
14.3 輸送時の危険性クラス クラス	9 (環境有害性)
14.4 容器等級	III (少々危険な物質)
14.5 環境有害性 環境有害物質 (水生環境)	水生環境有害性 ポリ (オキシエチレン) = パラ- (1,1,3,3-テトラメチルブチル) フェニル=エーテル (別名：トリトン X-100)
14.6 使用者のための特別予防措置 追加情報がない。	
14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 荷はバラ積み輸送に適していない。	

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

国連番号	3082
正式輸送品名	環境有害物、液体、他の危険性を有しないもの
クラス	9
環境有害性	該当 (水生環境有害性)
容器等級	III
警告表示ラベル	9, 魚及び木



特別規定 (SP)	274, 331, 335, 375 (UN RTDG)
適用除外 (EQ)	E1 (UN RTDG)
少量危険物 (LQ)	5 L (UN RTDG)

国際海上危険物規則(IMDG)

国連番号	3082
正式輸送品名	環境有害物、液体、他の危険性を有しないもの
クラス	9
海洋汚染物質	該当 (水生環境有害性)
容器等級	III
警告表示ラベル	9, 魚及び木



特別規定 (SP)	274, 335, 969
-----------	---------------

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

適用除外 (EQ)	E1
少量危険物 (LQ)	5 L
EmS	F-A, S-F
積み込みカテゴリー	A
国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)	
国連番号	3082
正式輸送品名	環境有害物、液体、他の危険性を有しないもの
クラス	9
環境有害性	該当 (水生環境有害性)
容器等級	III
警告表示ラベル	9, 魚及び木
	
特別規定 (SP)	A97, A158, A197
適用除外 (EQ)	E1
少量危険物 (LQ)	30 kg

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない。

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない。

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
Acute Tox.	急性毒性
Aquatic Acute	水生環境有害性－短期間（急性）有害性
Aquatic Chronic	水生環境有害性－長期間（慢性）有害性
BCF	生物濃縮係数
BOD	生物化学的酸素要求量
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
COD	化学的酸素要求量
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
DNEL	導出無影響レベル
EC50	半数影響濃度。EC50とは試験した物質の濃度の反応（例えば成長）が一定した期間内に50% 変化することを指す
EmS	救急スケジュール
ErC50	≒EC50: 当方法では被験物質と比較し、濃度の成長 [EbC50] または成長率 [ErC50] が50 %に減少させる物質の濃度をいう
Eye Dam.	眼の重篤な損傷

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

略	使用した略語の説明
Eye Irrit.	眼刺激性
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
LC50	半数致死濃度：LC50とは、試験された物質にばく露された生物の50%が一定期間内に死亡する濃度のことをいう
log KOW	n-オクタノール／水
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
PNEC	予測無影響濃度
Repr.	生殖毒性
Skin Corr.	皮膚腐食性
Skin Irrit.	皮膚刺激性
STOT RE	特定標的臓器毒性（反復ばく露）
STOT SE	特定標的臓器毒性（単回ばく露）
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）.

関連する警句のリスト（項目2と項目3で記すコードと全文を記載）

コード	文
H302	飲み込むと有害.
H303	飲み込むと有害のおそれ.
H310	皮膚に接触すると生命に危険.
H315	皮膚刺激.
H316	軽度の皮膚刺激.
H318	重篤な眼の損傷.
H319	強い眼刺激.
H320	眼刺激.
H361	生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い.
H370	臓器の障害.
H372	長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害.
H373	長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ.

5x ChIP Buffer iC1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.01.2020

コード	文
H400	水生生物に非常に強い毒性.
H401	水生生物に毒性.
H402	水生生物に有害.
H411	長期継続的影響により水生生物に毒性.
H412	長期継続的影響により水生生物に有害.

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名

Tagmentation buffer

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途

診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供

+32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類

章	危険性クラス	区分	危険有害性クラス及び区分	危険有害性情報
2.6	引火性液体	3	Flam. Liq. 3	H226
3.3	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	1	Eye Dam. 1	H318
3.5	生殖細胞変異原性	2	Muta. 2	H341
3.6	発がん性	1B	Carc. 1B	H350
3.7	生殖毒性	1B	Repr. 1B	H360
3.8	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	1	STOT SE 1	H370
3.9	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	1	STOT RE 1	H372

省略の全文：第16節を参照。

最も重要な物理化学的悪影響、人の健康と環境に対する影響及び症状

短期及び長期ばく露からの遅発及び急性影響が予想される。製品は可燃性であり、潜在的発火源の接触で発火しうる。

2.2 ラベル要素

表示

- 注意喚起語

危険

- 絵表示

GHS02, GHS05, GHS08



Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

- 危険有害性情報

H226	引火性の液体および蒸気.
H318	重篤な眼の損傷.
H341	遺伝性疾患のおそれの疑い.
H350	発がんのおそれ.
H360	生殖能または胎児への悪影響のおそれ.
H370	臓器の障害 (肝臓).
H372	長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害 (肝臓).

- 注意書き

P202	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと.
P210	熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること. 禁煙.
P233	容器を密閉しておくこと.
P240	容器を接地すること/アースをとること.
P241	防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること.
P242	火花を発生させない工具を使用すること.
P243	静電気放電に対する予防措置を講ずること.
P260	粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと.
P270	この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと.
P280	保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること.
P303+P361+P353	皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと.
P305+P351+P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること.
P310	ただちに医師に連絡すること.
P321	特別な処置が必要である（このラベルのを見よ）.
P370+P378	火災の場合：消火するために砂、二酸化炭素または粉末消火器を使用すること.
P403+P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと.
P405	施錠して保管すること.
P501	内容物/容器を産業用ゴミ焼却施設に廃棄すること.

- 有害成分の表示

N,N-dimethylformamide

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果

当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない.

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

物質名	特定名	wt%	GHSに基づいた分類	絵表示
N,N-dimethylformamide	CAS-番号 68-12-2	≤ 10	Flam. Liq. 3 / H226 Acute Tox. 5 / H303 Acute Tox. 4 / H312 Acute Tox. 3 / H331 Eye Dam. 1 / H318 Muta. 2 / H341 Carc. 1B / H350 Repr. 1B / H360 STOT SE 1 / H370 STOT RE 1 / H372	

省略の全文：第16節を参照.

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者への診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者への診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

換気が不十分な際、及び／又は換気中は可燃性/引火性空気と蒸気の混合物が発生する可能性。溶媒蒸気は空気より重い為、床レベルで広がる特性を持っている。換気が行き渡っていない地下区域、例えば堀、導管やシャフト等では可燃性/引火性物質や混合物が存在する傾向がある。

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NO_x), 一酸化炭素 (CO), 二酸化炭素 (CO₂)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消火活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。着火源を避けること。発火源から離して保管—禁煙。静電気放電に対する措置を講ずること。よく換気された場所で使用すること。爆発の危険性のため、蒸気が地下、送気管や水路に流出しないのを防ぐこと。容器を接地しアースを取ること。防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。

- 特殊な注記／明細

換気が行き渡っていない地下区域、例えば堀、導管やシャフト等では可燃性／引火性物質や混合物が存在する傾向がある。蒸気は空気より重いため、床に近い所で広がり、空気と交わって爆発性混合物を生じる。蒸気は空気と交わると爆発性混合物を生じる可能性がある。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

次のリスクに直面した場合

- 爆発性

器を密閉し、換気された場所で保管。局所及び全体換気を使用すること。涼しいところに置くこと。日光から遮断すること。

- 燃焼危険性

発火源から離して保管—禁煙。熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。静電気放電に対する措置を講ずること。日光から遮断すること。

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

霜

- 換気要求事項

局所及び全体換気を使用すること。容器を接地しアースを取ること。

- 輸送容器の適合性

認可された（例えば危険物規則書に基づいた）包装容器のみ使用可能。

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

職場ばく露限界値（職場ばく露限界）											
国	物質の名前	CAS-番号	特定名	OEL-M [ppm]	OEL-M [mg/m ³]	STEL [ppm]	STEL [mg/m ³]	OEL-C [ppm]	OEL-C [mg/m ³]	注釈	出典
JP	N, N- ジメチルホルムアミド (DMF)	68-12-2	OEL	10	30						JSOH

注釈

OEL-C 天井値とはばく露が超えてはいけない限界

OEL-M 時間加重平均（長期ばく露）：参考期間 8 時間の時間加重平均で測定あるいは計算

STEL 短期ばく露限界：他に特定されていない場合、参考期間 15 分内で超えてはいけない限界

混合物の成分の関連する DNEL						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	保護目標、ばく露の経路	次の部門に用いられる：	ばく露時間
N,N-dimethylformamide	68-12-2	DNEL	15 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性－全身的作用
N,N-dimethylformamide	68-12-2	DNEL	30 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	急性－全身的作用
N,N-dimethylformamide	68-12-2	DNEL	15 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性－局所的作用
N,N-dimethylformamide	68-12-2	DNEL	30 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	急性－局所的作用
N,N-dimethylformamide	68-12-2	DNEL	3,31 mg/kg 体重/日	ヒト、経皮	労働者（企業）	慢性－全身的作用
N,N-dimethylformamide	68-12-2	DNEL	26,3 mg/kg 体重/日	ヒト、経皮	労働者（企業）	急性－全身的作用
N,N-dimethylformamide	68-12-2	DNEL	446 µg/cm ²	ヒト、経皮	労働者（企業）	慢性－局所的作用
N,N-dimethylformamide	68-12-2	DNEL	5.900 µg/cm ²	ヒト、経皮	労働者（企業）	急性－局所的作用

混合物の成分の関連する PNEC						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	生体	環境コンパートメント	ばく露時間
N,N-dimethylformamide	68-12-2	PNEC	30 mg/l	水中の微生物	淡水	短期（単回）
N,N-dimethylformamide	68-12-2	PNEC	3 mg/l	水中の微生物	海水	短期（単回）
N,N-dimethylformamide	68-12-2	PNEC	123 mg/l	水中の微生物	下水処理場 (STP)	短期（単回）
N,N-dimethylformamide	68-12-2	PNEC	115,2 mg/kg	水中の微生物	淡水堆積物	短期（単回）
N,N-dimethylformamide	68-12-2	PNEC	11,52 mg/kg	水中の微生物	海底堆積物	短期（単回）
N,N-dimethylformamide	68-12-2	PNEC	56,97 mg/kg	地球型生物	土壌	短期（単回）

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ることを。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	独特

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
----------------------------	--------------

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

	自動着火温度	測定できない
	粘度	測定できない
	爆発性	なし
	酸化性	なし
9.2	その他の情報	追加情報がない

第 10 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に、当該混合物は反応性物質を含んでいる。発火の危険性。

熱せられた場合：

発火の危険性

10.2 化学的安定性

下記、「避けるべき条件」を参照。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。

火災や爆発を避けるための手引き

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。静電気放電に対する措置を講ずること。

10.5 不適合材料

酸化性物質

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第 11 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

重篤な眼の損傷。

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

遺伝性疾患のおそれの疑い。

発がん性

発がんのおそれ。

生殖毒性

胎児への悪影響のおそれ。生殖能への悪影響のおそれ。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

臓器の障害 (肝臓)。

危険有害性区分	標的臓器	ばく露経路
1	肝臓	ばく露がある場合

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

長期にわたる、または反復ばく露による臓器(肝臓)の障害。

危険有害性区分	標的臓器	ばく露経路
1	肝臓	ばく露がある場合

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvBの評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第13節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

廃棄物処分に関連する情報

溶剤の回収利用／再生.

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない. 外界に漏れるのを防ぐこと. 取扱説明書を閲覧すること.

包装材／容器の廃棄物処分

認可された（例えば危険物規則書に基づいた）包装容器のみ使用可能. 完全に空にした容器はリサイクル可能. 汚染されたコン包は物質その物と同じ取扱いになる.

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること. 地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう.

第14節：輸送上の注意

14.1	国連番号	1993
14.2	国連出荷名	その他の引火性液体、他の危険性を有しないもの
	専門名 (危険有害性成分)	N,N-dimethylformamide
14.3	輸送時の危険性クラス	
	クラス	3 (引火性液体)
14.4	容器等級	III (少々危険な物質)
14.5	環境有害性	危険物規則に基づいて環境有害性ではない
14.6	使用者のための特別予防措置	
	追加情報がない.	
14.7	MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送	
	荷はバラ積み輸送に適していない.	

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

国連番号	1993
正式輸送品名	その他の引火性液体、他の危険性を有しないもの
クラス	3
容器等級	III
警告表示ラベル	3
	
特別規定 (SP)	223, 274 (UN RTDG)
適用除外 (EQ)	E1 (UN RTDG)
少量危険物 (LQ)	5 L (UN RTDG)

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

国際海上危険物規則(IMDG)

国連番号	1993
正式輸送品名	その他の引火性液体、他の危険性を有しないもの
クラス	3
海洋汚染物質	-
容器等級	III
警告表示ラベル	3



特別規定 (SP)	223, 274, 955
適用除外 (EQ)	E1
少量危険物 (LQ)	5 L
EmS	F-E, <u>S-E</u>
積み込みカテゴリー	A

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

国連番号	1993
正式輸送品名	その他の引火性液体、他の危険性を有しないもの
クラス	3
容器等級	III
警告表示ラベル	3



特別規定 (SP)	A3
適用除外 (EQ)	E1
少量危険物 (LQ)	10 L

第15節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない。

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない。

第16節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
Acute Tox.	急性毒性
Carc.	発がん性
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
DNEL	導出無影響レベル

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

略	使用した略語の説明
EmS	救急スケジュール
Eye Dam.	眼の重篤な損傷
Eye Irrit.	眼刺激性
Flam. Liq.	引火性液体
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
JSOH	日本産業衛生学会 “産業衛生学雑誌”: 許容濃度等の勧告
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略: 海洋汚染防止条約)
Muta.	生殖細胞変異原性
OEL	許容濃度
OEL-C	天井値
OEL-M	時間加重平均
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
PNEC	予測無影響濃度
ppm	100万分の1
Repr.	生殖毒性
STEL	短時間暴露限界
STOT RE	特定標的臓器毒性 (反復ばく露)
STOT SE	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 [JISZ7252]. GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

関連する警句のリスト (項目2 と項目3 で記すコードと全文を記載)

コード	文
H226	引火性の液体および蒸気.
H303	飲み込むと有害のおそれ.
H312	皮膚に接触すると有害.
H318	重篤な眼の損傷.
H331	吸入すると有毒.
H341	遺伝性疾患のおそれの疑い.

Tagmentation buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

コード	文
H350	発がんのおそれ.
H360	生殖能または胎児への悪影響のおそれ.
H370	臓器の障害 (肝臓).
H372	長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害 (肝臓).

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのためにまとめられた.

wash buffer tagW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 wash buffer tagW1

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細
この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者への診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者への診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

wash buffer tagW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレアのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず, 珪藻土, 砂, 万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

wash buffer tagW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

wash buffer tagW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2	その他の情報	追加情報がない
-----	--------	---------

wash buffer tagW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

wash buffer tagW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壤中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

wash buffer tagW1

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

G H S に基づく化学品の分類方法 (JIS Z7252). G H S に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (S D S) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

Wash Buffer tagW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 Wash Buffer tagW2

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類

章	危険性クラス	区分	危険有害性クラス及び区分	危険有害性情報
3.2	皮膚腐食性/刺激性	3	Skin Irrit. 3	H316

省略の全文：第16節を参照。

2.2 ラベル要素

表示

- 注意喚起語 警告
- 絵表示 必要ない

- 危険有害性情報
H316 軽度の皮膚刺激。

- 注意書き
P332+P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果

当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

Wash Buffer tagW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

物質名	特定名	wt%	GHSに基づいた分類	絵表示
ポリ（オキシエチレン）＝パラ－（1,1,3,3-テトラメチルブチル）フェニル＝エーテル（別名：トリトン X-100）	CAS-番号 9002-93-1	≤ 1	Acute Tox. 4 / H302 Skin Irrit. 2 / H315 Eye Irrit. 2A / H319 Aquatic Acute 2 / H401 Aquatic Chronic 2 / H411	
Sodium dodecyl sulphate	CAS-番号 151-21-3	≤ 0,5	Acute Tox. 4 / H302 Acute Tox. 2 / H310 Skin Irrit. 2 / H315 Eye Dam. 1 / H318 STOT SE 1 / H370 STOT RE 2 / H373 Aquatic Acute 1 / H400 Aquatic Chronic 3 / H412	

省略の全文：第16節を参照。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者（医師）の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者（医師）の診察を受け、応急処置を開始すること。気道刺激の際は医師の診察を受けること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

Wash Buffer tagW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NO_x)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

Wash Buffer tagW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

混合物の成分の関連するDNEL

物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	保護目標、ばく露の経路	次の部門に用いられる：	ばく露時間
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	DNEL	285 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性－全身的作用
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	DNEL	4,060 mg/kg 体重／日	ヒト、経皮	労働者（企業）	慢性－全身的作用

混合物の成分の関連するPNEC

物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	生体	環境コンパートメント	ばく露時間
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,176 mg/l	水中の微生物	淡水	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,018 mg/l	水中の微生物	海水	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	1,35 mg/l	水中の微生物	下水処理場 (STP)	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	6,97 mg/kg	水中の微生物	淡水堆積物	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	0,697 mg/kg	水中の微生物	海底堆積物	短期（単回）
Sodium dodecyl sulphate	151-21-3	PNEC	1,29 mg/kg	地球型生物	土壌	短期（単回）

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

Wash Buffer tagW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期をすること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH（値）	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

Wash Buffer tagW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

9.2	その他の情報	追加情報がない
-----	--------	---------

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

下記、「避けるべき条件」を参照。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影響の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

軽度の皮膚刺激。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

Wash Buffer tagW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

Wash Buffer tagW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
Acute Tox.	急性毒性
Aquatic Acute	水生環境有害性－短期間（急性）有害性
Aquatic Chronic	水生環境有害性－長期間（慢性）有害性
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
DNEL	導出無影響レベル
Eye Dam.	眼の重篤な損傷
Eye Irrit.	眼刺激性
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
PNEC	予測無影響濃度
Skin Corr.	皮膚腐食性
Skin Irrit.	皮膚刺激性
STOT RE	特定標的臓器毒性（反復ばく露）
STOT SE	特定標的臓器毒性（単回ばく露）
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 [JISZ7252]. GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）- 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

Wash Buffer tagW2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

関連する警句のリスト (項目2 と項目3 で記すコードと全文を記載)

コード	文
H302	飲み込むと有害.
H310	皮膚に接触すると生命に危険.
H315	皮膚刺激.
H316	軽度の皮膚刺激.
H318	重篤な眼の損傷.
H319	強い眼刺激.
H370	臓器の障害.
H373	長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ .
H400	水生生物に非常に強い毒性.
H401	水生生物に毒性.
H411	長期継続的影響により水生生物に毒性.
H412	長期継続的影響により水生生物に有害.

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのためにまとめられた.

Stripping Reagent

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 **Stripping Reagent**

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

Stripping Reagent

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NOx)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

Stripping Reagent

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。個人の保護具：第 8 節を参照。混触禁止物質：第 10 節を参照。廃棄上の注意：第 13 節を参照。

第 7 節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第 16 節を参照。

第 8 節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

Stripping Reagent

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2	その他の情報	追加情報がない
-----	--------	---------

Stripping Reagent

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

Stripping Reagent

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

Stripping Reagent

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

MgCl2

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 **MgCl2**

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

MgCl₂

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレートのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

MgCl₂

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

MgCl₂

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2	その他の情報	追加情報がない
-----	--------	---------

MgCl₂

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

MgCl₂

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

MgCl₂

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式).

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのためにまとめられた.

resuspension buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 **resuspension buffer**

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医師の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医師の診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

resuspension buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール性泡、BC-パウダー、二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレートのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

resuspension buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

resuspension buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない

溶解性

- 水溶解性	あらゆる割合で混ざり合う
--------	--------------

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報	追加情報がない
------------	---------

resuspension buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

resuspension buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壤中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

廃棄物処分に関連する情報

その他の無機物の再生利用／回収利用。

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたコン包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

- | | |
|--|---------------------|
| 14.1 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 使用者のための特別予防措置 | 追加情報がない。 |
| 14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | 荷はバラ積み輸送に適していない。 |

resuspension buffer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JIS Z7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式).

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

Protease Inhibitor Mix

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.12.2019 (GHS 1)

改訂日: 28.02.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名

Protease Inhibitor Mix

製品コード

C12010010/C12010011/C12010012

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途

診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供

+32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月－金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類

章	危険性クラス	区分	危険有害性クラス及び区分	危険有害性情報
2.6	引火性液体	4	Flam. Liq. 4	H227

省略の全文：第16節を参照。

最も重要な物理化学的悪影響、人の健康と環境に対する影響及び症状

製品は可燃性であり、潜在的発火源の接触で発火しうる。

2.2 ラベル要素

表示

- 注意喚起語 警告
- 絵表示 必要ない
- 危険有害性情報
H227 可燃性液体。

- 注意書き

- P210 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
- P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- P370+P378 火災の場合：消火するために砂、二酸化炭素または粉末消火器を使用すること。
- P403+P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- P501 内容物/容器を産業用ゴミ焼却施設に廃棄すること。

Protease Inhibitor Mix

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.12.2019 (GHS 1)

改訂日: 28.02.2020

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果

当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

物質名	特定名	wt%	GHSに基づいた分類	絵表示
Dimethyl sulfoxide	CAS-番号 67-68-5	≤ 100	Flam. Liq. 4 / H227	

省略の全文：第16節を参照。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者 の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者 の診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

換気が不十分な際、及び／又は換気中は可燃性/引火性空気と蒸気の混合物が発生する可能性。溶媒蒸気は空気より重い為、床レベルで広がる特性を持っている。換気が行き渡っていない地下区域、例えば掘、導管やシャフト等では可燃性/引火性物質や混合物が存在する傾向がある。

Protease Inhibitor Mix

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.12.2019 (GHS 1)

改訂日: 28.02.2020

有害燃焼生成物

一酸化炭素 (CO), 二酸化炭素 (CO₂)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。着火源を避けること。発火源から離して保管—禁煙。静電気放電に対する措置を講ずること。よく換気された場所で使用すること。爆発の危険性のため、蒸気が地下、送気管や水路に流出しないのを防ぐこと。容器を接地しアースを取ること。防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。

- 特殊な注記／明細

換気が行き渡っていない地下区域、例えば掘、導管やシャフト等では可燃性／引火性物質や混合物が存在する傾向がある。蒸気は空気より重いため、床に近い所で広がり、空気と交わって爆発性混合物を生じる。蒸気は空気と交わると爆発性混合物を生じる可能性がある。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

Protease Inhibitor Mix

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.12.2019 (GHS 1)

改訂日: 28.02.2020

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

次のリスクに直面した場合

- 爆発性
器を密閉し、換気された場所で保管。局所及び全体換気を使用すること。涼しいところに置くこと。日光から遮断すること。
- 燃焼危険性
発火源から離して保管—禁煙。熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。静電気放電に対する措置を講ずること。日光から遮断すること。
- 換気要求事項
局所及び全体換気を使用すること。容器を接地しアースを取ること。

7.3 特定の最終製品

概要は第 1 6 節を参照。

第 8 節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

混合物の成分の関連する DNEL						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	保護目標、ばく露の経路	次の部門に用いられる：	ばく露時間
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	DNEL	484 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性—全身的作用
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	DNEL	265 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性—局所的作用
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	DNEL	200 mg/kg 体重/日	ヒト、経皮	労働者（企業）	慢性—全身的作用

混合物の成分の関連する PNEC						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	生体	環境コンパートメント	ばく露時間
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	PNEC	17 mg/l	水中の微生物	淡水	短期（単回）
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	PNEC	1,7 mg/l	水中の微生物	海水	短期（単回）
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	PNEC	11 mg/l	水中の微生物	下水処理場 (STP)	短期（単回）
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	PNEC	13,4 mg/kg	水中の微生物	淡水堆積物	短期（単回）
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	PNEC	3,02 mg/kg	地球型生物	土壌	短期（単回）

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

Protease Inhibitor Mix

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.12.2019 (GHS 1)

改訂日: 28.02.2020

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期をとること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
----------------------------	--------------

Protease Inhibitor Mix

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.12.2019 (GHS 1)

改訂日: 28.02.2020

	自動着火温度	測定できない
	粘度	測定できない
	爆発性	なし
	酸化性	なし
9.2	その他の情報	追加情報がない

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に、当該混合物は反応性物質を含んでいる。発火の危険性。

熱せられた場合：

発火の危険性

10.2 化学的安定性

下記、「避けるべき条件」を参照。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。

火災や爆発を避けるための手引き

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。静電気放電に対する措置を講ずること。

10.5 不適合材料

酸化性物質

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

Protease Inhibitor Mix

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.12.2019 (GHS 1)

改訂日: 28.02.2020

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壤中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

廃棄物処分に関連する情報

溶剤の回収利用／再生。

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

Protease Inhibitor Mix

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： 23.12.2019 (GHS 1)

改訂日: 28.02.2020

第14節：輸送上の注意

- 14.1 国連番号** 輸送規則の要件は適用されない
- 14.2 国連出荷名** 未特定
- 14.3 輸送時の危険性クラス** 未特定
- 14.4 容器等級** 未特定
- 14.5 環境有害性** 危険物規則に基づいて環境有害性ではない
- 14.6 使用者のための特別予防措置**
追加情報がない。
- 14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送**
荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外。

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外。

第15節：適用法令

- 15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制**
追加情報がない。
- 15.2 化学物質安全性評価**
当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない。

第16節：その他の情報

変更された箇所（安全データシートの改訂）

章	以前の登録内容（文書／数値）	現時点の登録内容（文書／数値）	安全対策と関わりがある
1.1	商品名: protease inhibitor cocktail	商品名: Protease Inhibitor Mix	該当
1.1	製品コード: C12010011	製品コード: C12010010/C12010011/C12010012	該当

略語と頭字語

Protease Inhibitor Mix

バージョン番号: GHS 2.0
次のバージョンの差し替え： : 23.12.2019 (GHS 1)

改訂日: 28.02.2020

略	使用した略語の説明
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
DNEL	導出無影響レベル
Flam. Liq.	引火性液体
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
PNEC	予測無影響濃度
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）.

関連する警句のリスト（項目2と項目3で記すコードと全文を記載）

コード	文
H227	可燃性液体.

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

5% BSA

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 5% BSA

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細
この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

5% BSA

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

一酸化炭素 (CO), 二酸化炭素 (CO2)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

5% BSA

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。個人の保護具：第 8 節を参照。混触禁止物質：第 10 節を参照。廃棄上の注意：第 13 節を参照。

第 7 節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第 16 節を参照。

第 8 節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

5% BSA

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	白黄色
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2	その他の情報	追加情報がない
-----	--------	---------

5% BSA

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

酸化性物質

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

5% BSA

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

5% BSA

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

G H S に基づく化学品の分類方法 (JIS Z7252). G H S に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (S D S) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

rabbit IgG

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第1節: 化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 **rabbit IgG**
製品コード C15410206

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節: 危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節: 組成及び成分情報

3.1 物質

非該当 (混合物)

3.2 混合物

混合物の明細

この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。
0.02%アジ化ナトリウムが含まれています 防腐剤として。

rabbit IgG

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者への診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者への診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量の清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NOx)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消火活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

rabbit IgG

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうかを確認することを推奨する。

rabbit IgG

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期をすること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH（値）	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

rabbit IgG

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

9.2	その他の情報	追加情報がない
-----	--------	---------

第 1 0 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 1 1 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影響の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

rabbit IgG

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性
特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。
吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

- 12.1 毒性**
水生環境有害性として分類されない。
- 12.2 難分解性及び分解性**
データなし。
- 12.3 生物蓄積性**
データなし。
- 12.4 土壤中の移動度**
データなし。
- 12.5 PBT と vPvBの評価の結果**
データなし。
- 12.6 他の有害影響**
データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

- 13.1 廃棄物処理方法**
下水処理に関連する情報
排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。
包装材／容器の廃棄物処分
完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。
- 備考**
国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

- | | |
|---|---------------------|
| 14.1 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 使用者のための特別予防措置 | 追加情報がない。 |
| 14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | 荷はバラ積み輸送に適していない。 |

rabbit IgG

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JIS Z7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式).

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

H3K4me3 polyclonal antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 14.11.2019

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 **H3K4me3 polyclonal antibody**
製品コード C15410003

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月－金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類

章	危険性クラス	区分	危険有害性クラス及び区分	危険有害性情報
3.4S	感作性－皮膚	1	Skin Sens. 1	H317
4.1A	水生環境有害性－短期間（急性）有害性	3	Aquatic Acute 3	H402

省略の全文：第16節を参照。

最も重要な物理化学的悪影響、人の健康と環境に対する影響及び症状
消火水の流出により水流汚染を引き起こすおそれ。

2.2 ラベル要素

表示

- 注意喚起語 **警告**

- 絵表示

GHS07



- 危険有害性情報

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
H402 水生生物に有害。

H3K4me3 polyclonal antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 14.11.2019

- 注意書き
 - P261 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレ-の吸入を避けること。
 - P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 - P273 環境への放出を避けること。
 - P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
 - P302+P352 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
 - P321 特別な処置が必要である（このラベルのを見よ）。
 - P333+P313 皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
 - P362+P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
 - P501 内容物/容器を産業用ゴミ焼却施設に廃棄すること。

- 有害成分の表示 proclin 300

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果

当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

この製品は、緩衝水溶液中の抗体で構成されています。0.05%アジ化ナトリウムを含むそして0.05% ProClin™ 300 防腐剤として。

物質名	特定名	Wt%	GHSに基づいた分類	絵表示
proclin 300	CAS-番号 55965-84-9	0,05	Acute Tox. 4 / H302 Acute Tox. 3 / H311 Acute Tox. 4 / H332 Skin Corr. 1B / H314 Eye Dam. 1 / H318 Skin Sens. 1 / H317 Aquatic Acute 1 / H400 Aquatic Chronic 1 / H410	

省略の全文：第16節を参照。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

H3K4me3 polyclonal antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 14.11.2019

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NOx)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

H3K4me3 polyclonal antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 14.11.2019

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い、作業域内での飲食と喫煙の禁止、食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し、飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと、通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと、食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

混合物の成分の関連するDNEL						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	保護目標、ばく露の経路	次の部門に用いられる：	ばく露時間
proclin 300	55965-84-9	DNEL	0,02 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性－局所的作用
proclin 300	55965-84-9	DNEL	0,04 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	急性－局所的作用

混合物の成分の関連するPNEC						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	生体	環境コンパートメント	ばく露時間
proclin 300	55965-84-9	PNEC	3,39 µg/l	水中の微生物	淡水	短期（単回）
proclin 300	55965-84-9	PNEC	3,39 µg/l	水中の微生物	海水	短期（単回）
proclin 300	55965-84-9	PNEC	0,23 mg/l	水中の微生物	下水処理場 (STP)	短期（単回）
proclin 300	55965-84-9	PNEC	0,027 mg/kg	水中の微生物	淡水堆積物	短期（単回）
proclin 300	55965-84-9	PNEC	0,027 mg/kg	水中の微生物	海底堆積物	短期（単回）
proclin 300	55965-84-9	PNEC	0,01 mg/kg	地球型生物	土壌	短期（単回）

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

H3K4me3 polyclonal antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 14.11.2019

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ることを。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	1 g/cm ³ では 20 °C
蒸気密度	この情報は、入手できない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
----------------------------	--------------

H3K4me3 polyclonal antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 14.11.2019

	自動着火温度	測定できない
	粘度	測定できない
	爆発性	なし
	酸化性	なし
9.2	その他の情報	追加情報がない

第 10 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

下記、「避けるべき条件」を参照。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。

第 11 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

H3K4me3 polyclonal antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 14.11.2019

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生生物に有害。

混合物の成分の（急性）水生毒性					
物質名	CAS-番号	エンドポイント	値	生物種	ばく露時間
proclin 300	55965-84-9	LC50	0,19 mg/l	魚	9 6 h
proclin 300	55965-84-9	EC50	0,16 mg/l	水生無脊椎動物	4 8 h
proclin 300	55965-84-9	ErC50	19,9 µg/l	藻類	7 2 h

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壤中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvBの評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

H3K4me3 polyclonal antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 14.11.2019

第14節：輸送上の注意

- | | | |
|------|---------------------------------------|---------------------|
| 14.1 | 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 | 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 | 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 | 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 | 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 | 使用者のための特別予防措置 | 追加情報がない. |
| 14.7 | MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | 荷はバラ積み輸送に適していない. |

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第15節：適用法令

- 15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制
追加情報がない.
- 15.2 化学物質安全性評価
当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第16節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
Acute Tox.	急性毒性
Aquatic Acute	水生環境有害性－短期間（急性）有害性
Aquatic Chronic	水生環境有害性－長期間（慢性）有害性
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
DNEL	導出無影響レベル
EC50	半数影響濃度。EC50とは試験した物質の濃度の反応（例えば成長）が一定した期間内に50% 変化することを指す
ErC50	≒EC50: 当方法では被験物質と比較し、濃度の成長 (EbC50) または成長率 (ErC50) が50 %に減少させる物質の濃度をいう
Eye Dam.	眼の重篤な損傷
Eye Irrit.	眼刺激性

H3K4me3 polyclonal antibody

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 14.11.2019

略	使用した略語の説明
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
LC50	半数致死濃度：LC50とは、試験された物質にばく露された生物の50%が一定期間内に死亡する濃度のことをいう
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
PNEC	予測無影響濃度
Skin Corr.	皮膚腐食性
Skin Irrit.	皮膚刺激性
Skin Sens.	感作性－皮膚
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法－ラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）- 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）.

関連する警句のリスト（項目2と項目3で記すコードと全文を記載）

コード	文
H302	飲み込むと有害.
H311	皮膚に接触すると有毒.
H314	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷.
H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ.
H318	重篤な眼の損傷.
H332	吸入すると有害.
H400	水生生物に非常に強い毒性.
H402	水生生物に有害.
H410	長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性.

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

ChIP-seq grade GAPDH TSS primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 28.02.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 ChIP-seq grade GAPDH TSS primer pair
製品コード C17011047

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月－金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この製品は、水性緩衝液中の合成DNAオリゴヌクレオチドで構成されています。危険な成分は一切含まれていません。この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

ChIP-seq grade GAPDH TSS primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 28.02.2020

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者への診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者への診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消火活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

ChIP-seq grade GAPDH TSS primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 28.02.2020

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取る。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

ChIP-seq grade GAPDH TSS primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 28.02.2020

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性 (固体、気体)	非該当, [液体]
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報

その他の情報	追加情報がない
--------	---------

ChIP-seq grade GAPDH TSS primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 28.02.2020

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

ChIP-seq grade GAPDH TSS primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 28.02.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壤中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

- | | |
|--|---------------------|
| 14.1 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 使用者のための特別予防措置 | |
| 追加情報がない。 | |
| 14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | |
| 荷はバラ積み輸送に適していない。 | |

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

ChIP-seq grade GAPDH TSS primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 28.02.2020

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

ChIP-seq grade Myoglobin exon 2 primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 ChIP-seq grade Myoglobin exon 2 primer pair
製品コード C17011006

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月－金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この製品は、水性緩衝液中の合成DNAオリゴヌクレオチドで構成されています。危険な成分は一切含まれていません。この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

ChIP-seq grade Myoglobin exon 2 primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者への診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者への診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

ChIP-seq grade Myoglobin exon 2 primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること: おがくず, 珪藻土, 砂, 万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

ChIP-seq grade Myoglobin exon 2 primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH（値）	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, [液体]
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報

追加情報がない

ChIP-seq grade Myoglobin exon 2 primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

ChIP-seq grade Myoglobin exon 2 primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壤中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

ChIP-seq grade Myoglobin exon 2 primer pair

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 23.12.2019

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

G H S に基づく化学品の分類方法 (JIS Z7252). G H S に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (S D S) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

Tagmentation enzyme

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 09.06.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 Tagmentation enzyme

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

Tagmentation enzyme

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 09.06.2020

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NO_x), 一酸化炭素 (CO), 二酸化炭素 (CO₂)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず, 珪藻土, 砂, 万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

Tagmentation enzyme

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 09.06.2020

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。個人の保護具：第 8 節を参照。混触禁止物質：第 10 節を参照。廃棄上の注意：第 13 節を参照。

第 7 節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第 16 節を参照。

第 8 節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

Tagmentation enzyme

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 09.06.2020

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	独特

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報

追加情報がない

Tagmentation enzyme

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 09.06.2020

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

酸化性物質

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

Tagmentation enzyme

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 09.06.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

Tagmentation enzyme

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 09.06.2020

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

G H S に基づく化学品の分類方法 (JIS Z7252). G H S に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (S D S) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

2x High-Fidelity Mastermix

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 18.06.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 2x High-Fidelity Mastermix

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK, Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類

章	危険性クラス	区分	危険有害性クラス及び区分	危険有害性情報
2.6	引火性液体	4	Flam. Liq. 4	H227

省略の全文：第1.6節を参照。

最も重要な物理化学的悪影響、人の健康と環境に対する影響及び症状

製品は可燃性であり、潜在的発火源の接触で発火しうる。

2.2 ラベル要素

表示

- 注意喚起語 警告
- 絵表示 必要ない
- 危険有害性情報
H227 可燃性液体。

- 注意書き

P210 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
P370+P378 火災の場合：消火するために砂、二酸化炭素または粉末消火器を使用すること。
P403+P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P501 内容物/容器を産業用ゴミ焼却施設に廃棄すること。

2x High-Fidelity Mastermix

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 18.06.2020

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvB の評価の結果

当該混合物には PBT あるいは vPvB として特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

物質名	特定名	wt%	GHSに基づいた分類	絵表示
Dimethyl sulfoxide	CAS-番号 67-68-5	≤ 10	Flam. Liq. 4 / H227	

省略の全文：第16節を参照。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医師の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医師の診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

換気が不十分な際、及び／又は換気中は可燃性／引火性空気と蒸気の混合物が発生する可能性。溶媒蒸気は空気より重い為、床レベルで広がる特性を持っている。換気が行き渡っていない地下区域、例えば堀、導管やシャフト等では可燃性／引火性物質や混合物が存在する傾向がある。

2x High-Fidelity Mastermix

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 18.06.2020

有害燃焼生成物
一酸化炭素 (CO), 二酸化炭素 (CO₂)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して
ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレートのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言
下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言
吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術
吸着材。

流出と放出などについての他の事柄
適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第5節を参照。個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。着火源を避けること。発火源から離して保管。禁煙。静電気放電に対する措置を講ずること。よく換気された場所で使用すること。爆発の危険性のため、蒸気が地下、送気管や水路に流出しないのを防ぐこと。容器を接地しアースを取ること。防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。

- 特殊な注記／明細

換気が行き渡っていない地下区域、例えば堀、導管やシャフト等では可燃性／引火性物質や混合物が存在する傾向がある。蒸気は空気より重いので、床に近い所で広がり、空気と交わって爆発性混合物を生じる。蒸気は空気と交わると爆発性混合物を生じる可能性がある。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

2x High-Fidelity Mastermix

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 18.06.2020

次のリスクに直面した場合

- 爆発性

器を密閉し、換気された場所で保管。局所及び全体換気を使用すること。涼しいところに置くこと。日光から遮断すること。

- 燃焼危険性

発火源から離して保管—禁煙。熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。静電気放電に対する措置を講ずること。日光から遮断すること。

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

霜

- 換気要求事項

局所及び全体換気を使用すること。容器を接地しアースを取ること。

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

混合物の成分の関連するDNEL						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	保護目標、ばく露の経路	次の部門に用いられる：	ばく露時間
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	DNEL	484 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性—全身的作用
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	DNEL	265 mg/m ³	ヒト、吸入	労働者（企業）	慢性—局所的作用
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	DNEL	200 mg/kg 体重/日	ヒト、経皮	労働者（企業）	慢性—全身的作用

混合物の成分の関連するPNEC						
物質名	CAS-番号	エンドポイント	閾値	生体	環境コンパートメント	ばく露時間
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	PNEC	17 mg/l	水中の微生物	淡水	短期（単回）
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	PNEC	1,7 mg/l	水中の微生物	海水	短期（単回）
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	PNEC	11 mg/l	水中の微生物	下水処理場 (STP)	短期（単回）
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	PNEC	13,4 mg/kg	水中の微生物	淡水堆積物	短期（単回）
Dimethyl sulfoxide	67-68-5	PNEC	3,02 mg/kg	地球型生物	土壌	短期（単回）

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

2x High-Fidelity Mastermix

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 18.06.2020

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ることを。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	独特

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
----------------------------	--------------

2x High-Fidelity Mastermix

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 18.06.2020

	自動着火温度	測定できない
	粘度	測定できない
	爆発性	なし
	酸化性	なし
9.2	その他の情報	追加情報がない

第 10 節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に、当該混合物は反応性物質を含んでいる。発火の危険性。

熱せられた場合：

発火の危険性

10.2 化学的安定性

下記、「避けるべき条件」を参照。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。

火災や爆発を避けるための手引き

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。火花を発生させない工具を使用すること。静電気放電に対する措置を講ずること。

10.5 不適合材料

酸化性物質

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第 11 節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

2x High-Fidelity Mastermix

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 18.06.2020

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

吸引性呼吸器有害性

吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壤中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

廃棄物処分に関連する情報

溶剤の回収利用／再生。

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

2x High-Fidelity Mastermix

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 18.06.2020

第14節：輸送上の注意

- | | | |
|------|---------------------------------------|---------------------|
| 14.1 | 国連番号 | 輸送規則の要件は適用されない |
| 14.2 | 国連出荷名 | 未特定 |
| 14.3 | 輸送時の危険性クラス | 未特定 |
| 14.4 | 容器等級 | 未特定 |
| 14.5 | 環境有害性 | 危険物規則に基づいて環境有害性ではない |
| 14.6 | 使用者のための特別予防措置 | 追加情報がない。 |
| 14.7 | MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送 | 荷はバラ積み輸送に適していない。 |

国連モデル規則による情報を提供すること
輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)
未特定

国際海上危険物規則(IMDG)
IMDG協定対象外。

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)
ICAO-IATA協定対象外。

第15節：適用法令

- 15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制
追加情報がない。
- 15.2 化学物質安全性評価
当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない。

第16節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
CAS	化学情報検索サービス機関（公表されたすべての化学物質情報を収集・体系化するサービス機関）
DGR	危険物規則書（IATA/DGR参照）
DNEL	導出無影響レベル
Flam. Liq.	引火性液体
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約（略：海洋汚染防止条約）

2x High-Fidelity Mastermix

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 18.06.2020

略	使用した略語の説明
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
PNEC	予測無影響濃度
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

関連する警句のリスト (項目2 と項目3 で記すコードと全文を記載)

コード	文
H227	可燃性液体.

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のみのためにまとめられた.

100x SYBR

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 **100x SYBR**

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細
この混合物には潜在的に危険な製品は含まれていません。

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

100x SYBR

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

有害燃焼生成物

酸化窒素 (NOx)

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

100x SYBR

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

6.4 他の節を参考に

有害性燃焼生成物：第 5 節を参照。個人の保護具：第 8 節を参照。混触禁止物質：第 10 節を参照。廃棄上の注意：第 13 節を参照。

第 7 節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第 16 節を参照。

第 8 節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

100x SYBR

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	オレンジ
臭気	独特

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2	その他の情報	追加情報がない
-----	--------	---------

100x SYBR

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

100x SYBR

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壤中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

100x SYBR

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 26.05.2020

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式).

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

universal primer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

第1節：化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名 universal primer
製品コード K13621004

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途 診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK, Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供 +32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月－金 09:00 - 17:00

第2節：危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節：組成及び成分情報

3.1 物質

非該当（混合物）

3.2 混合物

混合物の明細

この製品は、水性緩衝液中の合成DNAオリゴヌクレオチドで構成されています。危険な成分は一切含まれていません。.

universal primer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

第4節：応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医者への診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医者への診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO2)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消火活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

universal primer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること: おがくず, 珪藻土, 砂, 万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策

局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：

霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

universal primer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性 (固体、気体)	非該当, [液体]
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2 その他の情報

追加情報がない

universal primer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

universal primer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

universal primer

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.

Primer index 1-24

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

第1節: 化学品及び会社情報

1.1 製品特定名

商品名

Primer index 1-24

1.2 物質や混合物の関連性があり、特定された用途と使用しないよう勧告されている用途

関連性がある特定された用途

診断または治療手順での使用ではなく、研究用のみ。

1.3 安全性データシートを提供する供給者の会社名称

Diagenode SA
LIEGE SCIENCE PARK, Rue du Bois Saint-Jean, 3
4102 Seraing
ベルギー

電話番号: +32 4 364 20 50
メール: info@diagenode.com

1.4 緊急電話番号

緊急時情報提供

+32 4 364 20 50
当該番号は次の営業時間に利用可能: 月 - 金 09:00 - 17:00

第2節: 危険有害性の要約

2.1 物質及び混合物の分類

GHSに基づいた分類
当該混合物は分類対象外。

2.2 ラベル要素

表示
必要ない

2.3 他の危険有害性

PBT と vPvBの評価の結果
当該混合物にはPBT あるいはvPvBとして特定される物質は含まれていない。

第3節: 組成及び成分情報

3.1 物質

非該当 (混合物)

3.2 混合物

混合物の明細

この製品は、水性緩衝液中の合成DNAオリゴヌクレオチドで構成されています。危険な成分は一切含まれていません。。

第4節: 応急措置

4.1 応急処置の記述

一般的な備考

犠牲者から目を離さない。犠牲者を危険区域から移動させる。犠牲者に毛布などを掛け、暖かく安静にしておくこと。汚染された衣服は直ちに脱ぎ去ること。疑念がある場合や症状が持続する場合には医師の診察を受けること。意識不明の場合、回復体位にする。口にはなにも入れないこと。

吸入した場合

不規則な呼吸や呼吸停止の場合、ただちに医師の診察を受け、応急処置を開始すること。新鮮な空気を入れること。

Primer index 1-24

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

皮膚と接触した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。

目に入った場合

コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。開眼しておき、最低10分間多量な清浄水で洗浄しておくこと。

飲み込んだ場合

口を水ですすぐこと（犠牲者が意識がある際のみ）。無理に吐かせないこと。

4.2 最も重要な急性および遅発症状と影響

症状と影響は現状まで知られていない。

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

なし

第5節：火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧, BC-パウダー, 二酸化炭素 (CO₂)

不適切な消火剤

水ジェット

5.2 化学品から生じる特定の危険有害性

5.3 消防士に対してのアドバイス

火災や爆発の際には、発生する気体を吸入しないこと。環境に適する消防対策を調整すること。消火水が排水路や水流に流出しないよう防ぐこと。汚染された防火用水を別けて回収すること。標準な警備で妥当な距離から消化活動を行うこと。

第6節：漏出時の措置

6.1 人への予防措置、防具、および応急処置法

非緊急事態要員に対して

ヒトを安全な場所に誘導すること。

緊急事態要員に対して

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレートのばく露の際は呼吸器を着用すること。

6.2 環境上の予防措置

排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。汚染された水は確保し、廃棄すること。

6.3 封じ込めと流出物洗浄の方法、及び機材

流出を封じ込める方法について適切な助言

下水溝を覆うこと

流出を浄化する方法について適切な助言

吸収材で拭き取ること（雑巾、フリース等）。漏出物を回収すること：おがくず、珪藻土、砂、万能バインダー

適切な封じ込め技術

吸着材。

流出と放出などについての他の事柄

適切な容器にて処分すること。汚染地域を換気すること。

6.4 他の節を参考に

個人の保護具：第8節を参照。混触禁止物質：第10節を参照。廃棄上の注意：第13節を参照。

Primer index 1-24

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

第7節：取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

勧告

- エアゾールやダストの発生及び火災の防止対策
局所及び全体換気を使用すること。よく換気された場所で使用すること。

一般的な労働衛生の手順

使用後の手洗い。作業域内での飲食と喫煙の禁止。食事する場所に入る前の、汚染された衣類と防具の取り外し。飲食物を化学製品と一緒に保管しないこと。通常食物が保管されている容器に化学製品を入れないこと。食品、飲料、動物用のエサからは離して保管。

7.2 混触危険性を含む、安全な保管条件

影響の制御方法

次の外部ばく露から保護すること：
霜

7.3 特定の最終製品

概要は第16節を参照。

第8節：ばく露防止及び保護措置

8.1 管理パラメーター

この情報は、入手できない。

8.2 ばく露制御

適切な工学的管理方法

一般的な排気。

個人保護装置（個人的保護措置）

眼/顔面の保護

保護眼鏡/保護面を着用。

皮膚の保護

- 手の保護

適切な手袋を着用。EN374に基づいて検査された化学製品保護手袋が適性である。使用前に密封性/不浸透性を確認すること。手袋を再度使用したい場合は脱ぐ前に洗い、良く換気すること。特殊用途の際には手袋の供給者に上記の保護手袋が耐化学薬品性かどうか確認することを推奨する。

- その他の保護

皮膚再生の為に回復期を取ること。予防用の皮膚保護（バリアクリーム／軟膏）を推奨する。取扱後は手をよく洗うこと。

呼吸器の保護

【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

環境ばく露管理

環境汚染を防ぐため、適切な閉鎖空間で利用すること。排水路、地表水及び地下水への流出を防ぐこと。

Primer index 1-24

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

第9節：物理的及び化学的性質

9.1 基本的な物理化学的特性に関する情報

外観

物理的性状	液体
色	無色の
臭気	無臭

その他、安全性評価基準

pH (値)	測定できない
融点／凝固点	測定できない
初留点と沸点範囲	測定できない
引火点	測定できない
蒸発速度	測定できない
可燃性（固体、気体）	非該当, (液体)
爆発限界	測定できない
蒸気圧	測定できない
密度	測定できない
蒸気密度	この情報は、入手できない
比重	当該特性に関する情報がない
溶解性	測定できない

分配係数

- n-オクタノール／水分配係数 (log KOW)	この情報は、入手できない
自動着火温度	測定できない
粘度	測定できない
爆発性	なし
酸化性	なし

9.2	その他の情報	追加情報がない
-----	--------	---------

Primer index 1-24

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

第10節：安定性及び反応性

10.1 反応性

混触禁止に関しては：下記「避けるべき条件」と「混触禁止物質」を参考に。

10.2 化学的安定性

常温や気圧の元、当該物品は通常の保管または取扱により安定している。

10.3 有害反応の可能性

危険な反応は知られていない。

10.4 避けるべき条件

特定の避けるべき条件は知られていない。

10.5 不適合材料

追加情報がない。

10.6 有害な分解生成物

使用、保管、流出、加熱の結果、生じる既知の合理的に予測可能な有害な分解生成物は知られていない。有害性燃焼生成物：第5節を参照。

第11節：毒性学的情報

11.1 毒性学的影响の情報

混合物そのものについて試験データが入手できない。

分類手順

混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている（加算式）。

GHSに基づいた分類

当該混合物は分類対象外。

急性毒性

急性毒性として分類されない。

皮膚腐食性/刺激性

皮膚腐食性/刺激性として分類されない。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

眼の重篤な損傷性または眼刺激性として分類されない。

呼吸器感作性または皮膚感作性

呼吸器または皮膚感作性として分類されない。

生殖細胞変異原性

生殖細胞変異原性として分類されない。

発がん性

発がん性として分類されない。

生殖毒性

生殖毒性として分類されない。

単回ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（単回ばく露）として分類されない。

反復ばく露の場合の特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性（反復ばく露）として分類されない。

Primer index 1-24

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

吸引性呼吸器有害性
吸引性呼吸器有害性として分類されない。

第 1 2 節：環境影響情報

12.1 毒性

水生環境有害性として分類されない。

12.2 難分解性及び分解性

データなし。

12.3 生物蓄積性

データなし。

12.4 土壌中の移動度

データなし。

12.5 PBT と vPvB の評価の結果

データなし。

12.6 他の有害影響

データなし。

第 1 3 節：廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

下水処理に関連する情報

排水路中の水を乾燥させてはならない。外界に漏れるのを防ぐこと。取扱説明書を閲覧すること。

包装材／容器の廃棄物処分

完全に空にした容器はリサイクル可能。汚染されたこん包は物質その物と同じ取扱いになる。

備考

国レベル又は地域レベルの規定を参考すること。地元や国の廃棄物管理施設が廃棄物を分けて処理出来るよう、あらかじめ分別するよう。

第 1 4 節：輸送上の注意

14.1 国連番号

輸送規則の要件は適用されない

14.2 国連出荷名

未特定

14.3 輸送時の危険性クラス

未特定

14.4 容器等級

未特定

14.5 環境有害性

危険物規則に基づいて環境有害性ではない

14.6 使用者のための特別予防措置

追加情報がない。

14.7 MARPOL73/78 付属書II 及びIBC-Codeによるバラ積み輸送

荷はバラ積み輸送に適していない。

国連モデル規則による情報を提供すること

輸送情報 - 国の規則 - 追加情報 (UN RTDG)

未特定

Primer index 1-24

バージョン番号: GHS 1.0

編集日: 22.06.2020

国際海上危険物規則(IMDG)

IMDG協定対象外.

国際民間航空機関 (ICAO-IATA/DGR)

ICAO-IATA協定対象外.

第 1 5 節：適用法令

15.1 該当物質や混合物に特有な安全、健康および環境に関する規制

追加情報がない.

15.2 化学物質安全性評価

当該混合物に含まれている成分の化学物質安全性評価を実施されていない.

第 1 6 節：その他の情報

略語と頭字語

略	使用した略語の説明
DGR	危険物規則書 (IATA/DGR参照)
GHS	国連によって考案された「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」
IATA	国際航空運送協会
IATA/DGR	国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR)
ICAO	国際民間航空機関
IMDG	国際海上危険物規則
MARPOL	船舶による汚染の防止のための国際条約 (略：海洋汚染防止条約)
PBT	難分解性、生物蓄積性、有害化学物質を有する物質
vPvB	極めて難分解性で生物蓄積性が高い物質

参考文献とデータ源

GHSに基づく化学品の分類方法 (JISZ7252). GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS) - 日本工業規格. JIS Z7253.

国連・危険物の輸送に関する勧告. 国際海上危険物規則(IMDG). 国際航空運送協会 (IATA) に係わる危険物規則書(DGR).

分類手順

物理的及び化学的性質: 試験された混合物に基づく分類.

健康に対する有害性, 環境有害性: 混合物を分類するアプローチは混合物の各成分に基づいている (加算式) .

免責

現在の知識をもとにした情報. SDSは当商品のためのみにまとめられた.